

ラジオドラマ用オリジナルシナリオ

One Shot Story Series

## 「シンデレラロード (第3話)」

作・牛

### 《キャスト紹介》

- |      |     |                              |
|------|-----|------------------------------|
| 女性客  | ・・・ | 香住華子 (24才)<br>看護婦。伊藤寿浩の婚約者。  |
| 刑事   | ・・・ | 生田署・捜査1課の刑事。<br>ヒョウヒョウとした性格。 |
| マスター | ・・・ | 女性バーテンダー。                    |

### 《 舞 台 》

港が近くにあるBAR「サンドリオン」。  
店内には常にジャズが流れている。

(PLAY-1)

S E ドアの開閉の音

- マスター : いらしゃいませ。
- 刑事 : こんばんわ。この間はお騒がせしましてどうもすみません。
- マスター : いいえ・・・
- 刑事 : あ、それはそうとこんな本を買いましたね。
- マスター : カクテル教室・・・
- 刑事 : ええ、この間マスターに作って頂いたあのカクテル、えーと名前が・・・
- マスター : シンデレラ・ロード・・・
- 刑事 : ええ、それです。あんまり美味しかったもんですから、自分でも作ろうと思ひましてね。それが、どこを探しても無いんですよ・・・
- マスター : それは、オリジナル・カクテルだからです。
- 刑事 : オリジナル？
- マスター : ええ当店だけのものですから・・・
- 刑事 : あ、そうだったんですか、マスターがお考えになった・・・私って馬鹿だなあ・・・いくら探しても無いはずだ、お恥ずかしい。
- マスター : よければレシピをお教え致しましょうか？
- 刑事 : よろしんですか、企業秘密ってヤツじゃないんですか？
- マスター : いいえ、そんな大げさなものではありません。
- 刑事 : いやあ恐縮です。マスターには色々教えて頂いて。
- マスター : 私は何も・・・
- 刑事 : 今回の事件解決のヒントもこの前頂きました。
- マスター : (驚いて) 私が？
- 刑事 : ええ。
- マスター : どのようなことを私が？
- 刑事 : アレですよ。
- マスター : 時計・・・

(PLAY-2)

### S E ドアの開閉の音

マスター : いらしゃいませ。  
刑 事 : わざわざすみません、こちらへどうぞ。  
女性客 : どうも・・・  
刑 事 : アレを彼女に作ってあげて貰えませんか？  
マスター : はい？  
刑 事 : さっきお話ししていたカクテルを・・・  
マスター : かしこまりました。

### S E ドリンクを作る音

女性客 : (緊張) 捜査の方は、進んでますか？  
刑 事 : はっきり言って、難しい事件です。いやあ参りました、おまけに告訴までされちゃって・・・  
女性客 : そうですか・・・  
刑 事 : あなたにも度々ご迷惑をお掛けして申しわけないと思っております。でも・・・もうこれ以上お呼び出ししたりすることはないと思いますので・・・  
女性客 : (驚き) では事件が・・・  
マスター : お待たせしました。  
女性客 : これは・・・  
刑 事 : ご存知ですね？  
女性客 : シンデレラ・ロード・・・  
刑 事 : そうです。あの夜事件があった日、あなたと伊藤さんがここで最後にお飲みになったカクテルです。ご記憶ですね？  
女性客 : ええ・・・  
刑 事 : これをお飲みになって伊藤さんは急に酔いが回ったと言われました・・・でもこのカクテルはそんなにきつい方じゃあない。むしろ女性好みに甘くさっぱりと出来てる。そうじゃありませんか、マスター？  
マスター : ええ・・・  
刑 事 : だから急に酔いが回るとも思えません。ただ・・・何もこの中に混入されていなかったら・・・

(PLAY-3)

刑 事 : 混入物をマスターに後で見つけられないようにグラスを割った・・・

女性客 : そんな・・・ただの憶測で、それに彼は本当にお酒が弱いだよ！

刑 事 : すみません。ただの憶測です。次ぎに引っ掛かったのが時間です。判らなかつた・・・見事ですよ、全く。

女性客 : 時間がどうしたんです？

刑 事 : 伊藤さんは嘘の証言は確かにしてません。彼の言った時間的なアリバイにも嘘はないと思います。

女性客 : (ほっと) ええ。

刑 事 : ただし、彼は虚構の時間を信じ込まされていたのです。

女性客 : 虚構の時間・・・

刑 事 : そう、作られた時間ということです。

女性客 : 絵空言の冗談でしょうか？

刑 事 : いいえ、私は真剣です。刑事としての進退問題を抱えていますので・・・

女性客 : ではどういう事か説明して下さい。

刑 事 : 犯行時間は午前零時から午前1時の間です。あなたは婚約者の伊藤さんを車に乗せ10時過ぎにここを出た。そして11時に別荘へ到着。そうですね？

女性客 : ええ。

刑 事 : そして伊藤さんの証言ではそれからはずっとあなたと一緒に過ごした。犯行時間にはあなたは婚約者と楽しい時間を過ごしていた。そして午前1時にあなたはこのバーへ電話している。そうですね？

マスター : はい・・・

刑 事 : これが概略です。あなたが作りあげた虚構の時間の・・・

#### (PLAY-4)

刑 事 : 問題解決の鍵は時計でした。それも止まった時計・・・

女性客 : 止まった時計・・・

刑 事 : 事実はこちらです。あなたは最後のカクテルに睡眠薬を混ぜて婚約者の伊藤さんに飲ませた。あなたは看護婦だからその辺は入手も知識も完全だった。おそらく確実に6時間か

ら8時間昏睡するものを慎重に選んだんだと思います。  
別荘に着いたときは伊藤さんは深い眠りに就いていた。あなたは予め用意していたあなたの車で真鍋智彦のアパートを訪ねた。別荘からだ約1時間掛かりましたね？

女性客 : . . .  
刑事 : 真鍋とは5年ほど前に恋人関係にあった。短い期間で別れたものの、最近再会した。そして真鍋は金づるとばかりにあなたをゆすつてきた。これは真鍋をよく知るチンピラから直接聞きました。

女性客 : . . .  
刑事 : あなたは真鍋殺害を計画し、あの夜犯行を実行した。頭部打撲による脳挫傷、直接の死因は鋭利な刃物により心臓を一突き . . . 普通は心臓を狙っても素人は外すですよ。思ったより体の中心にあるもんでね。でもその犯人はまるで人体図を見て刺したかのように正確です。

女性客 : (枯れた声で) 私には . . . アリバイがあります . . .  
刑事 : そう、あなたは完璧にアリバイ工作をしました。時間を逆行させたのです。

女性客 : . . .  
刑事 : 犯行を終え、別荘に帰ってきたのが午前3時くらいでしょうか。あなたはそれから急いで、別荘中の時計を全て4時間遅らせたのです。そしてまだ十分車の中で熟睡してる伊藤さんを、まさに今到着したかのように起こす . . . ただしここであなたは1つだけミスを犯してる。遅らせてはいけない時計まで遅らせたのです . . .

女性客 : (驚き) 遅らせてはいけない時計！  
刑事 : 3時で止まった時計の針まで . . . その後何時間かは婚約者と楽しい時間を過ごしたのです。でもまだ睡眠薬が効いている伊藤さんは再び眠りに陥った。それを見計らってもう一度、今度は本当の時間に全てを戻したのです。

#### (PLAY-5)

女性客 : 嘘よ . . .  
刑事 : 別荘の古い時計の針からあなたの指紋が検出されました。そのトリックを証明するのにもう1つあります。霧です。

女性客 : 霧・・・  
刑事 : 伊藤さんはこう証言してます。着いた時から霧につつまれ  
まるで別世界のような感じだったと。でもあの日霧が発生したのは  
午前2時からなんです。海上気象台の記録にありました。  
11時には霧はまだ出ていなかったのです。

女性客 : ……  
刑事 : そして犯行直後にマスターに電話しましたね。時計を忘れた  
と。そして伊藤さんの目の前でもマスターに電話をして  
る振りをする。すると後で二人の証言が合うことになりま  
す。こうしてあなたは見事に4時間のタイム・ラグを作り  
あげました・・・そう、見事に……

女性客 : 駄目よ……  
刑事 : ん？  
女性客 : 今のは全て状況証拠だけだわ。私個人を確定するものが無  
いわ。

刑事 : 犯罪にお詳しいですね？  
女性客 : そんなこと、常識で考えても判ることだわ。時計の指紋だっ  
て掃除をしたのが私なら……

刑事 : そうです。今のは全て状況証拠です……  
女性客 : そらごらんない。

刑事 : この事件を調べる中で、実はあなたの経歴を全て調べさせ  
て貰いました。

女性客 : 私の経歴を？  
刑事 : はい、勝手に調べてすみません。あなたは九州の高千穂町  
という所でお生まれになってる。お父さんは会社を営んで  
いたが失敗して、自殺なさってる。その後家が火災にあ  
い、あなたのご家族は相当金銭的苦労をなさってる。実は  
九州のあなたのお母さんにも私、会ってきました。

女性客 : 母に！  
刑事 : いやあ、いいお母さんだった。今年で還暦を迎えられるそ  
うですね。嬉しそうにしていましたよ、あなたのご婚約を  
……

(PLAY-6)

女性客 : 母が……(動揺) 母が……

刑 事 : あの子にはとても苦勞を掛けたって、すまなそうに・・・  
女性客 : (思い余って) 母には!  
刑 事 : まだ何も話してません。  
女性客 : (しまったと思った瞬間もう観念する) 優秀な刑事さんですもの、決定的な物的証拠ももう用意されてるんでしょうね。  
刑 事 : ……  
女性客 : 教えて下さい。なんですか?  
刑 事 : 皮膚細胞です。ガイ者の爪の間から本人と違う細胞が検出されてます。おそらく最後にもがいた時に加害者の腕を必死に掴んだんでしょうなあ・・・DNA検査をすれば、おそらく・・・  
マスター : 華子さん・・・  
女性客 : 華子って名前だけど、ちっとも華やかな事なんて、私の人生でなかった・・・  
刑 事 : 華子さんの華は、華々しいという字だったんですね。  
女性客 : ええ、でも母と苦勞ばかりしてきました・・・  
マスター : 辛かったのですね。  
女性客 : やっと、生まれて始めて幸せになれるチャンスが来て、あまりに大きいチャンスに少しためらったけど、あの日マスターの言葉で決心が・・・  
マスター : (以外にと) 私の?  
女性客 : 幸せは、自分で作るものだと・・・  
マスター : あ・・・  
女性客 : ごめんなさい、マスターには何も責任はありません。  
刑 事 : まだ、やり直せますよ。あなたはまだお若いし、頭もいいじゃないですか。  
女性客 : 刑事さん・・・どうぞ、手錠を・・・  
刑 事 : いや、困りましたな。私そそっかしくて忘れてきたみたいだ。それに逮捕状も作ってないし、お手数ですが自首してもらえませんか?  
女性客 : 刑事さん・・・ありがとうございます。  
刑 事 : あ、ちょっと待って下さい。行く前にもう一杯だけ飲んでいきませんか?このシンデレラ・ロードを・・・

おわり